

「この人 50」

鈴木和枝 68歳 静岡県

編集部 俳句を始められたのは？

鈴木 二十二歳頃からでしょうか。川柳を少ししておりましたが、子育て中のあれこれを俳句にするようになって、本格的に始めました。

編集部 滑稽俳句の魅力は？

鈴木 平成十九年に、静岡で国民文化祭が行われる際、八木会長に講演をお願いしました。それから、滑稽俳句に魅かれるようになりました。花鳥風月を詠むばかりでなく、自分らしさを表現するところに魅力を感じています。

編集部 俳句における滑稽とは？

鈴木 句の中にユーモアがあるのですが、それは、自分そのものでもあります。難しい言葉を使わずして、楽しさを誘い出す、人の気持ちを楽しくさせる、そういうものだと思います。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

鈴木 私は、むしろ忙しい時の方ができるようです。忙しく一日を過ごして、夜にホッとした時にできますね。

【代表句】

猛暑 女の続きがむずかしい
アサリが笑い出すまで浸しておく
カーブミラーの直立は秋をさがしている
何本有ってもいい夢を折る指
どこでどう縮んだかその背に夕日